

# 森林塾通信

発行 KOA 森林塾 (事務局)  
0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

## 第7回森林塾報告 テーマ「間伐」 『手入れしなければ混んでくる』

地域や樹種でいろいろ違  
いはありますが、この辺り  
でのヒノキやスギ、カラマ  
ツなどの針葉樹の植林はha  
当たり三千本、すなわち坪  
一本植えるのが一般的です。  
もちろん、その時点では遠  
目に見たら何かがあるのか  
ないのかよく判らない程度

のもので、特にヒノキなどは  
5年ほど経っても「ほんとに  
こいつ、大丈夫かな？」と思  
われるくらいにしか成長して  
いなくてももちろん混んでいる  
ということはない。島崎先生  
がよく言われる、「数も増え  
ないのに混んできた感じがす  
るといっているのは一本一本がだん



二本日本城さん。受け口をつくる。チェーンソーの角度は良い。



後藤班の側樹、最多の56本



中村班の鳩首会議。仕事は早い。



後藤班、勢揃いで樹高の目測

カマツや癖  
の悪そうな  
クリなどが  
あり、やや手  
をこなし27  
本を二時間  
余りで片づ  
けてしまっ

だんと大きくなってきたか  
ら。」に他ならない。「じゃあ  
初めから間伐が必要ないくら  
いの本数にして植えたら？」  
という、古くて新しい疑問に  
両先生は毎年なるほどという  
答えを出してくれます。「で  
も本場にそんなのかな？初め  
から1haに五百本のヒノキに  
しておいたら暴れ木になった  
りするのだろうか？」よく  
判っていないところもあるよ  
うです。何せ畑の菜っ葉と  
違ってだめなら来年やり直そ  
うというわけにも行きませ  
ん。相手はこちらの何倍も何  
十倍も生きる生き物ですの  
で。

伊那市山本の白山神社参道  
のスギ林。地元の方が、神社  
はやはりスギ、ということ  
植えられ、しばらく手入れを  
されていたのですが、最近  
はやや停滞気味。そこで植林  
のときにもお世話になった三  
沢さんにお骨折りにいただき、  
森林塾の間伐実践にお借り  
できました。混んだスギの中  
に斜めに生えるアカマツやク  
リ、サクラ。いままで扱った「  
経済林」と少し違って、材を  
作る林にするのではなくて肝  
心なのは今とこれからの景  
観、見た目の美しさ、神々し

さし難しい面もありました  
が、上層樹高が20〜23mとい  
うことを鑑み、密度(Sr)を  
20に近づけるにはha当たり  
五百〜六百本にする必要があ  
り、とりあえず六百二十五  
本、各班の調査区では二十五  
本まで落とすことにしまし  
た。

大野班は当初調査区内では  
三本しか伐る木がなく放浪し  
ていましたが三沢さんの指示  
により太目のアカマツを整理  
することになり景気の良い音  
を響かせれば予定終了。後藤  
班は半分以上の木を伐らな  
くはならず、とても時間が足  
りない。不要木の1/3程度  
は倒しましたが夕方からの宴  
会のこともあり後髪を引か  
れる思いで現場を離れまし  
た。すべてを整理できたわけ  
ではありませんでしたが、帰  
り際に山門から眺める参道は  
以前に比べ一歩二歩美しく  
なったという感じでした。

少し難しい面もありました  
が、上層樹高が20〜23mとい  
うことを鑑み、密度(Sr)を  
20に近づけるにはha当たり  
五百〜六百本にする必要があ  
り、とりあえず六百二十五  
本、各班の調査区では二十五  
本まで落とすことにしまし  
た。

大野班は当初調査区内では  
三本しか伐る木がなく放浪し  
ていましたが三沢さんの指示  
により太目のアカマツを整理  
することになり景気の良い音  
を響かせれば予定終了。後藤  
班は半分以上の木を伐らな  
くはならず、とても時間が足  
りない。不要木の1/3程度  
は倒しましたが夕方からの宴  
会のこともあり後髪を引か  
れる思いで現場を離れまし  
た。すべてを整理できたわけ  
ではありませんでしたが、帰  
り際に山門から眺める参道は  
以前に比べ一歩二歩美しく  
なったという感じでした。

大野班は当初調査区内では  
三本しか伐る木がなく放浪し  
ていましたが三沢さんの指示  
により太目のアカマツを整理  
することになり景気の良い音  
を響かせれば予定終了。後藤  
班は半分以上の木を伐らな  
くはならず、とても時間が足  
りない。不要木の1/3程度  
は倒しましたが夕方からの宴  
会のこともあり後髪を引か  
れる思いで現場を離れまし  
た。すべてを整理できたわけ  
ではありませんでしたが、帰  
り際に山門から眺める参道は  
以前に比べ一歩二歩美しく  
なったという感じでした。

大野班は当初調査区内では  
三本しか伐る木がなく放浪し  
ていましたが三沢さんの指示  
により太目のアカマツを整理  
することになり景気の良い音  
を響かせれば予定終了。後藤  
班は半分以上の木を伐らな  
くはならず、とても時間が足  
りない。不要木の1/3程度  
は倒しましたが夕方からの宴  
会のこともあり後髪を引か  
れる思いで現場を離れまし  
た。すべてを整理できたわけ  
ではありませんでしたが、帰  
り際に山門から眺める参道は  
以前に比べ一歩二歩美しく  
なったという感じでした。



ライワークの「手遅れ林分の手入れ」の講義

【今回の内容】  
第7回 7月22日(土)  
間伐

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方の挨拶、グループ分けのあと車に分乗して白山神社へ。部落のなかの小径で道に迷い5〜6台が行方不明になるも20分後に回収。

9時30分 測樹開始。各班4本の調査区で胸高直径の測定。

10時30分 測樹終了。区画内の本数は1班から順に43本、53本、54本、49本、52本、56本、46本、28本でした。先生の問伐についての説明のあと、各班区画内で25本を残すことにし、テープを巻く。

12時 昼食

1時 間伐開始。1班の川原班と、8班の大野班はともに伐る本数は多くない

が、太めのアカマツや癖の悪そうなクリなどがあり、やや手をこなし27本を二時間余りで片づけてしまっ



稲垣さんに丁寧な指導の後藤イントラ

左側2班、3班、4班の宮崎班、藤原班、川島班はともによや太めのスギを倒さなければならず、多少残して時間切れ。7班早川班も10本弱を残す。

**4時** 宮崎班梅木さんのスギ伐倒を最後に間伐実践終了。

**4時10分** とりあえず現地解散とし小屋に戻る組、直接温泉に向かう組それぞれが5時30分からの暑気払い会に備える。暑気払いたくさんのご参加ありがとうございました。

竹内さん、池田恭一さん、千草さんご夫妻も駆けつけてくれました。夜中の2時過ぎまで盛り上がり続けた模様。差し入れもたくさん。小川さん、宮下さん、池田さん夫妻のお酒、奥田さんのビール、佐藤さんは地元常滑の干物と煎餅、保科先生は自家



間伐前の暗い林、何かでそうな雰囲気

製の野菜とお米、感謝です。

参加者/池田さん、稲垣(久)さん、宇津さん、梅木さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、河尻さん、神田さん、具呂さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、鈴木さん夫妻、田中さん、長島さん、中村(輝)さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口(亜)さん、横井さん、小川さん、奥田さん、奥本さん、粕谷さん、金子さん、河原さん、佐野さん、鈴木(章)さん、藤村さん、藤本さん、本城さん、村谷さん、山口(み)さん、宮下さん、浜田さん夫妻

講師/保科先生、島崎先生  
スタッフ/川島、川原、後藤、佐藤、中村、藤原、宮崎、坪木、前田、早川



太くても形質の悪い木は倒された。

**次回以降の予定**  
**Bコース夏の部**  
7月27日(木)7月29日(土) 間伐を中心に森林調査から伐出までKOA森林塾のエキスを一通り実践します。

**第8回 8月26日(土) 伐出**  
8時30分 小屋集合  
いわゆる出しといわれる集材をやりませう。間伐の現場、白山神社を予定して



鈴木二世にささ舟を伝授する保科先生



日が差し込み明るくなった参道

**今回の復習&豆知識**  
**現況調査(測樹)を終えて**  
調査表をまとめるとき今ひとつ判らないのが密度(Sr)、林分形状比あたりかと思われまます。右下の表を使って説明します。前提として高さの伸び(樹高生長)は林が混んでいるか否かにはあまり影響され

ありません。なお26日、27日鳩吹公園を中心にしてアウトドアでの遊びを集めた「まほらいな地球元気村」が開催されます。興味のある方はどうぞ。



坂田さん肩に力が入りすぎ

れないということがあります。(これは地位(肥えていて日当たりがよいかなど)に左右される要素です)。

よって上層の平均樹高(時には平均樹高を使う)に対して平均樹幹距離がどのくらいあるかを%で表したものが密度(Sr)です。難しくいって相対幹距比といえます。表ではhaあたりの本数が千八百七十五本ですので一本あたりの占める平均面積が一万、m<sup>2</sup>÷千八百七十五で約五・三m<sup>2</sup>。この平方根が平均樹幹距離になります。すなわち二・三m。これを上層樹高で割って十三・三という数字をだすわけです。高さを「二割」の基準からするととても混んだ林です。

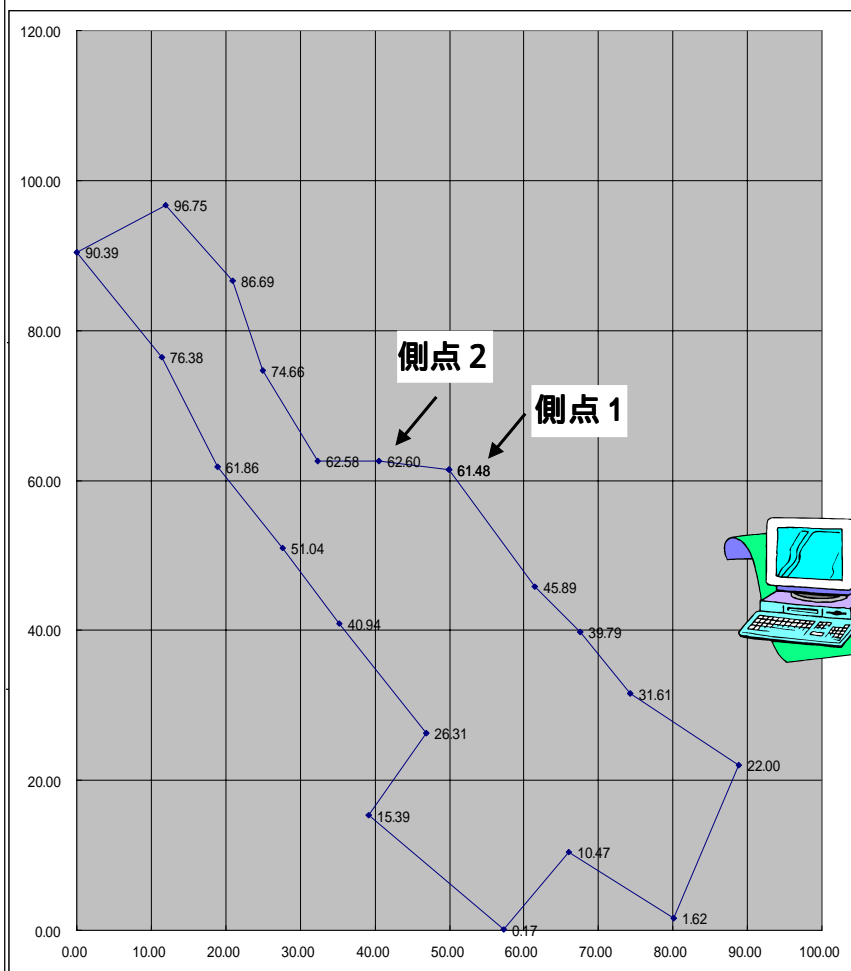
	直径	本数	樹高	材積	摘要
	8 cm	3本	12m	0.102	調査面積 0.04ha
	10	11	14	0.66	林齢 27年
	12	16	15	1.44	ha当木数 1875本
	14	15	16	1.80	平均直径 14.8 cm
	16	8	17	1.36	樹高 平均 15.8 m
	18	15	17	3.15	上層 17.3 m
	20	6	18	1.68	ha当断面積 32 m <sup>2</sup>
	22	1	19	0.35	ha材積 264m <sup>3</sup>
					枝下高 7 m
計		75		10.542	地位指数 23
平均	14.7		15.84	0.141	密度(Sr) 13.3
1ha当り(x 25)		1875		263.55	林分形状比 107

とてもひよる長い木(痩せている木)であるということですから。当然風、雪などには弱い。これも混み具合の指標となります。

**第6回測量の宿題の答え**  
小屋のすぐ裏(西側)の3チーム分(データは早川班)を図にしてみました。二千四百六十mという結果が出ましたが、パソコンによる測量での誤差は六百分の一程度というなかなかのものでした。ちゃんと机の上で製図をしたら誤差が五百分の一くらい、これを三斜法で計算しましたら二千四百七十五mになりました。パソコンと比べてもそれほど遜色ないぞ!



測点	方位角	高低角	斜距離	水平距離	高低差	実測値座標		修正有誤差		距離累計		グラフ表示用座標		面積	
						X(m)	Y(m)	Δx(m)	Δy(m)	ΣΔx(m)	ΣΔy(m)				
1	323.5	8	19.8	19.4	2.7	-11.5	15.6	0.00	0.00	0.00	0.00	49.91	61.48		
2	277.0	12	9.8	9.4	2.0	-9.32	1.14	-17.63	1.14	19.41	-0.00	-0.03	40.58	62.60	578.4
3	270.0	15	8.6	8.3	2.2	-8.3	0.0	-24.89	13.23	28.80	-0.00	-0.04	32.28	62.58	520.0
4	329.0	15	14.6	14.1	3.7	-7.3	12.1	-29.04	25.29	37.11	-0.00	-0.06	25.01	74.66	498.5
5	341.0	15	13.2	12.8	3.3	-4.2	12.1	-37.95	35.36	51.21	-0.01	-0.06	20.86	86.69	335.0
6	318.5	11	13.7	13.4	2.6	-8.9	10.1	-49.87	29.02	63.96	-0.01	-0.10	11.95	96.75	817.5
7	242.0	-1	13.5	13.5	-0.2	-11.9	-6.3	-31.00	0.54	77.41	-0.01	-0.12	0.03	90.39	1115.3
8	141.0	-12	18.4	18.0	-3.7	11.3	-14.0	-22.25	-10.26	90.91	-0.01	-0.14	11.35	76.38	-944.3
9	152.5	-10	16.6	16.3	-2.8	7.5	-14.5	-14.66	-20.24	108.90	-0.01	-0.16	18.90	61.86	-521.6
10	141.0	-12	14.2	13.9	-2.9	8.7	-10.8	-3.04	-34.95	125.25	-0.02	-0.19	27.64	51.04	-493.3
11	143.0	-12	12.9	12.6	-2.6	7.6	-10.1	-10.67	-45.84	139.14	-0.02	-0.21	35.23	40.94	-349.1
12	141.5	-9	18.9	18.7	-2.9	11.6	-14.6	-16.12	-50.70	151.76	-0.02	-0.23	46.85	26.31	-390.7
13	215.0	-1	19.3	19.3	-0.2	-7.6	-10.9	-30.25	-59.53	170.43	-0.02	-0.26	39.22	15.39	159.1
14	130.0	-16	24.6	23.6	-6.5	18.1	-15.2	-41.04	-61.04	189.72	-0.02	-0.28	57.33	0.17	-140.9
15	40.0	2	13.5	13.5	0.5	8.7	10.3	-50.70	207.37	207.37	-0.03	-0.31	66.00	10.47	-46.1
16	122.0	-13	17.1	16.7	-3.7	14.1	-8.8	-59.53	220.86	220.86	-0.03	-0.33	80.13	1.62	-65.4
17	23.0	3	22.2	22.2	1.2	8.7	20.4	-39.12	237.52	237.52	-0.03	-0.36	88.79	22.00	-102.3
18	303.5	14	18.0	17.5	4.2	-14.6	9.6	-29.49	259.69	259.69	-0.03	-0.39	74.22	31.61	390.5
19	321.0	12	10.8	10.6	2.2	-6.6	8.2	-21.28	277.16	277.16	-0.03	-0.42	67.57	39.79	237.4
20	315.0	6	8.7	8.7	0.9	-6.1	6.1	-15.16	292.72	292.72	-0.04	-0.43	61.45	45.89	262.2
<b>296.4</b>								0.04	0.44	296.38	-0.04	-0.44	49.91	61.48	<b>2460.0</b>



**【パソコンでの作図】**  
 左の図面？はマイクロソフトエクセルのグラフ作成機能を使用して作図してみました。左の3列のデータ(方位角、高低角、斜距離)を入力すると後は自動でパソコンが計算してくれます。グラフ機能を使用しての作図のため少々見づらいかもしれませんがどんな地形かをイメージするには十分かと思えます。  
 面積計算はパソコンでの計算がし易いように側点2点とX軸で囲まれる台形の面積を算出してその面積を足したり引いたりして合計を出しています。

ます。(経緯距法)  
 例題のエクセルでは側点が20点と固定ですが、パソコンをお持ちの方で参考にしてみたい方はメールにてファイルを送りますので坪木(muraki@tsudok.co.keonet.co.jp)までご一報下さい。また、もっと本格的な専用ソフトが欲しい方は、以下のホームページにフリーウェア(無料)からシェアウェア(有料)のものまでいろいろあるのを見つけたので入手してみたいかがでしょうか。  
 「カメラマン坪木」

**ソフトウェアのご案内**  
<http://www.vector.co.jp>  
 【ソフトウェア一覧】 - 【ビジネス】  
 - 【建築・土木】  
<http://www.vector.co.jp/vpack/filearea/win/business/architec/index.html>

7月8日、本日の森林塾が終了した午後四時、早川さんがニコニコしながら私の方に近づいてきた。わ、いよいよ私の番かな？当日朝、関東地方に台風が接近していた天候のせいか、いつもより若干参加者が少なめだったため、ひよっとしたらという予感の中。とうとうリレー通信の大役(?)が回ってきてしまいました。小学生レベルの文章しか書けない私には、読んでもいない本の読書感想文を明日の朝までに提出しろと学校の先生言われたに等しい気分。ましてや二千字なんて長文、何を書いたらいいんだろう。でもせっかくなかご指名いただいた以上は何とか誌面を埋めるつもりですので拙文ですが最後までお付き合いください。  
 私が当塾を知ったのは他の塾生の皆さんと同様、2月11日のNHKテレビがきっかけ



**ただいま、息子と同じ二年生  
河尻和憲**



だった。当日朝、外出前に新聞の番組欄を見ていたら「森のドクターと仲間たち」のタイトルが目に入った。林業に携わっている私にとっては、これは是非見ておかななくてはと留守録ボタンをオン。荒唐している日本の山々を少しでも回復させようとしている皆さんの映像を通じ、もつと先生やその仲間達のことを知りたい、是非自分もその仲間に加わりたいたいと感じたのが始まりだった。それから数日後、名古屋の書店で(わが町には本屋さんにはあるにはあるが雑誌程度しか置いていない)林業関係のコーナーを何気なしに見ていたら緑色の本の表紙にどこかで拝見したお顔があるではありませんか! そうだ! この間のTVに出ておられた鳥崎先生ではありませんか! 自分の本を買ってとせがむ息子を無視し、早速レジに向かったのだった。普段なら1ページで睡眠薬となる本も

この時ばかりは覚醒剤(使ったことは無いが)となり、時には内容にウンウンと頷きながら1日で読破したのだった。林業に携わっていると書いたが、私の実家(父)は岐阜県飛騨地方で山林経営、また木材加工業をやっている。しかし私は木とは全く関係のない、化粧品会社に入社し、鳥取支店入社後、福岡に転勤した。35歳の頃だから5年ほど前だったと思うが、正月に帰省中、親父から「お前、帰ってくるのか、どうするんだ。」と聞かれた。福岡赴任期間が長く、仕事もマンネリ化しつつあった当時、私としても後を継ぐ決意(今思うと決意と言っより非常に受動的)を固め、会社に退職願を出そうか迷っていた。しかしそれを止めるかのように突然人事部より本社異動の内示。再度迷ったあげく、異動後の部署は私

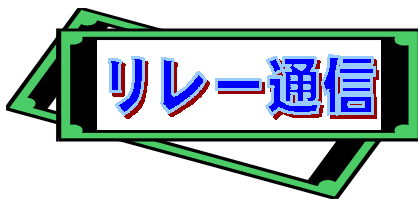
阜に戻ることにあった。仕事の内容も全く違い、勤務地も銀座から岐阜の山奥、周りの人間からは、「よくぞ思い切った」だの「どうして」だの、激励ともそれ以外とも受け取れるような言葉を貰った。戻ってきてからは全くの1年生からの出発。それまでデスクワークと出張・会議が殆どだったのが、最初の3ヶ月ぐらいいは肉体労働の連続。山林調査、木材の検尺、フォークリフトの運転、鳶口の使い方まで、見よう見まね、あるいは書物や人から聞いたことだけが私の知識だったから、当然技術的、理論的なものは何一つ持たず、とても山林経営をしているなどと言え

るものではなかった。ただ四季の移り変わりは体にダイレクトに感じる仕事であることを実感した。しかし、戻って来て間がない私でもすぐに気がつくことがあった。それは私が思っていた以上に、日本の山、林業がヒドイ状態にあることだった。大抵どの山も、遠くからでは緑できれいでも中に入ると薄暗く、地面はジメツとして何も生えていない。また、土地柄、親もしくは先祖からの山を持っていて、同級生は地元にも結構いるが、聞いてみると、「山なんて放つときゃ大きくなる。」



岐阜県金山町

はまだ良い方で「広さや境界なんて知らんぞ。」さらには「どこにあるかも知らん。」なんてのが現実。(偉そうなこと書いてるけど、私も山に行ってみたら、小さい頃からここが境だと思っていた所は実は全然違う場所だった...) 今、自分の会社に「Forest Rescuer」隊を結成したいと思っている。何が言いたい文章なのか全くわからなくなったが、最後に、私の俗っぽい理想かも知れないが、何年後か何十年後、「おお、KOA森林塾の受講生OBですか? 私も一度に受講しましたよ。」と見知らぬ同士が言えるような塾になっていて欲しいですね。ついでにPR。わが町岐阜県金山町は飛騨の一番南に位置し、すぐ北に下呂温泉、飛騨高山があるため、伊那地方と違って観光客も素通りしてしまふ山林面積率91%、人口八千人ぐらいの、なあくんにもない小さい町(観光課に怒ら



「そんなわけで」 松下優子

れそう)ですが、18歳まで過ごしたせいか、やはりこの町が好きです。伊那から1時間50分。何もせず、ただボーッと時を過ごしたい人、是非来てみてください。精一杯の歓迎をさせていただきます。もっと知りたい人は以下のURLへどうぞ。  
http://www.einami-hida.gr.jp/1.htm



私がKOA森林塾の存在を知ったのは、ちょうど4年前の今ごろでした。その年の3月にそれまで12年間は間勤めた仕事にやっとこさ見切りをつけ、とはいえ先の見通しは何も持たずにフリーターとなっていた私は、とにかくお金をかけずに新しい風をこの身に取り込みたいと、当時住んでいた世田谷区の主催する市民大学に通っていました。生活のためのバイトの合間の貴重な休日一日を割いて、毎週木曜日に午前中2コマの講義と午後ゼミ形式の授業。なんとも懐かしい雰囲気漂う世田谷線でトコトコ通い、折りしも「生涯教育」が声高に叫ばれる中、向学心に燃える同級生のオジサマ・オバサマ方と共に楽しく学んでおりました。3コマの授業はどれも興味深く、スカスカのスポンジのようであった私の頭や胸にどんどこみずみずしい知識や感動を流し込んでくれていました。中でも9時から始まる1コマ目の「農の回復と人間たちの自由」という講義には、生涯勤め上げるべき仕事を続けることができなかつた...とどこかイジケていた当時の私の目からぼろぼろと鱗が落ちるような人生観・労働観が天こ盛りでありますが生きていく勇氣さえ

ともあり、親父には「2年だけ待ってくれ。」とお願いし東京に転勤。担当業務のケリがつかず結局2年のはなつてしまつたが、40歳を前にした昨年4月、ようやく家族4人、岐

与えられているように感じていました。その講義の最終回がちょうど1学期の終わる7月で、名残惜しく思っていたところ目に入ったのが、その講義の講師の先生が主催する2泊3日のワークショップのチラシでした。内容は今思えば「林道づくり」とか「下草刈り」というものでしたが、それよりなにより講義の続きが聴きたいという一心で、早速単身参加の手続きをとったのでした。

前置きが長くなりましたが、このワークショップの集合場所・西武秩父の駅前に止められたマイクロバスの私の隣の席に乗り込んで来てくれたのが、森林塾の大先輩・浜田久美子さんだったのです。全く現金な話ですが、その3日間、あんなに聴きたかったその先生のお話はそっちのけで、私は久美子さんとのおしゃべりに夢中になっていました。その中で、見事私のハートをキャッチしたのが、そう「KOA森林塾」のことだったのです。その内容、開塾までの経緯、そして島崎先生・保科先生を始めとするそこに集うキャラクター豊かな人々のこと。即座に行ってみてほしい」と叫んだのを覚えています。

そして、その1ヶ月後の8月の終わりに飛び入りで森林塾に参加し、11月には取材で滞

在するといふ久美子さんと共に1ヶ月間山小屋で寝泊りし、島崎先生・早川さんにくつついて、チエーンソーでアカマツの間伐などの山仕事を体験しました。あのときの知識・技術の習得や感動は、どどーっと流れ込んできた市民大学でのそれとはまた違った、じわじわーと五感を通じて、ほかほかと身の内が温まっていくような、幸福感をともしなっていたっけなあ。懐かしく思い出します。

あれから4度目の春であるこの4月、諸条件ようやくと整い、念願の通年での森林塾参加が叶いました。毎回毎回、新たな発見と変わらぬ感動を感じさせてくれるこの学びを、いずれ自分なりのフィルターを通して社会に還元することができれば、との夢を抱きつつ、せつせと通ってきたと思いますので、なにとぞよろしくおねがいします。

# リレー通信

～ HIVはどこから来たのか? ～  
坂本優子



私は現在、HIVの検査・診断の研究をしています。HIVとは「ヒト免疫不全ウイルス」のことで、エイズ(後天性免疫不全症候群)を引き起こすウイルスとして、皆さんもご存じの事と思います。今回は森林塾のリレー通信なのに「なぜ?」って感じですが、職業柄、エイズについてお話したいと思います。日本ではTV等で良く話題になるものの、実際はあまり身近に感じない病気だと思えます。しかし世界では非常に問題になっていきます。全世界での累積HIV感染者は約三千万人と言われ、特に深刻な地域はアフリカで、何と成人の10人に3人が感染者であると言われていきます。わが国と比較すると、日本の感染者は累積で約五千人、単純計算で大体二万五千人に一人の割合です。日本では各個人がエイズに対してまだまだ危機感を感じないのも仕方ない状況だといえます。

エイズは千九百八十一年にアメリカで発見されました。エイズとは簡単に言うと、免疫力が低下する病気の事で、健康な人ならやっつけられるはずの弱い病原体にも感染してしまい、多くの感染症を併発して死に至ります。HIVは当初男性同性愛者のグループで多発したことや、その不治性や致死性から、一般社会ではかなり強い偏見と誤解に囲まれており、悲観的な展望を背負っています。しかし現在では治療薬が開発されつつあり、不治の病と思われていたエイズにも光が見えはじめてきました。近い未来、エイズは治る病気になるかもしれませぬ。ところで、皆さんに是非記憶を遡っていただきたいのですが、エイズの名前を耳にするようになったのは、いつ頃だったか覚えていらつしやいますか?そもそも人類と感染症は歴史上古くからのつきあいでした。14世紀のヨーロッパでのペストの大流行にはじまり、天然痘、梅毒、結核、インフルエンザなど、世界の歴史の中には常に多くの感染症が登場しており、人間と長い戦いを続けていました。しかし前述の通り、エイ

ズは20世紀後半の千九百八十年代に突如現れた病気で、不思議なことにそれまでの長い人類の歴史の中には一度も登場してきていません。なぜ、HIVは今になって急に私たちの前に現れたのでしょうか? HIVはどこからやってきたのでしょうか? 実はこれと同じようなことが他の感染症でも起こっています。昔は耳にしなかった新しい病原体が20世紀の後半になって次々に姿を現してきているのです。病原性大腸菌O・157などはまさにその典型です。映画「アウトブレイク」のモデルとなったエボラウイルスは千九百七十六年に突如アフリカのザイールに出現しました。他にもB型・C型肝炎や狂牛病、レジオネラ症などもこの20年で出てきた病気です。このように近年新しく発見された感染症を総称して新興感染症と呼んでいます。

それではなぜ20世紀末になつて新興感染症と呼ばれるものが次々に出現してきたのでしょうか?この20年で一体何が起こったのでしょうか? それは、人間の自然破壊が発端のようです。アフリカや南米などの森林が自然開発で削られ、森の奥に細々と生きてきたまだ人間と接点を持つたことのなかった細菌やウイルスが、行き場をなくして出てしまったのです。HIVもエボラウイルスも、元々はアフリカの奥深い森でサルを宿主として細々と生きてきた無害なウイルスだったのです。それが人間が森を破壊し、それまではしつかりと保たれていたはずの自然と人間との境界線が壊れてしまったため、人間が野生動物と遭遇する機会が必然的に増えてしまい、ある時何らかの理由でウイルスを持った一匹のサルと一人の人間が接触してしまったのです。交通機関の発達も、感染を拡大させる要因でした。飛行機や列車で世界の至る所に行ける時代を迎え、人々の移動に伴ってアフリカの風土病であったはずのHIVは瞬く間に世界の病気に変貌しました。そして千九百八十年代、HIVで汚染されていたアメリカの血液製剤がわが国へ輸入され、HIVはとうとう日本へ上陸しました。もし、という事を考えるのは無意味かもしれませんが、もしアフリカの森をむやみに手をつけなければ、誰もサルと接触することはなく、HIVも森の外へ出ていくこともなかったのでは、と思うことがあります。しかし、現に我々はアフリカの森を切つてしまいました。そして私の目の前には、患者さんの血液が

あります。遠く地球の反対側で起こった昔の出来事が、今の日本でも暗い影を落としているという事実は、人間があまりにも迂闊に犯してしまつた最悪の過ちのような気がしてなりません。自分達で蒔いた種とはいえ、私は目の前の患者さんの血液を検査しながら複雑な思いがします。

人間と自然はいかにつきあえばいいのか。HIVの事を考えながら、私は自然と人間の距離について考えています。遠いアフリカの森についても、そして日本の森についても・・・森林塾は私にとって森とのつきあい方を知るための最初の一步です。頑張っていきたくて思います。



【コラム】

前回の大雨の予報に打ち勝つた参加者の皆さんのパワー、すごいですねえ。今はナイター中の神宮球場の天気予報すらわかると聞きますが、その割には当たらないなあと感じるのは、やはり伊那が山沿いだからでしょうか？県内の気象情報では、「長野県南部」と出ますが、飯田も木曾も諏訪も一緒たなので、信用度はいまいち。まして全国の予報での県庁所在地の長野市の天気なんて見ても仕方ない。TVでの伊那の予報は私を知る

【暑気払い】

暑さをぶつとばせ!

早川さんのピンチヒッターに坪木が代打します。(早川さん曰く記事がかけるほど記憶が残っていないそうです。そういう私も次の日に酒が残ったくらいですが・・・)

毎年恒例となりました暑気払い。島崎先生の自慢の喉を披露して頂きました。

浜田、藤原コンビの司会も牙え渡り、森の熊さんなどを



をみんなで輪唱するなど、童心に返ることができた一時でした。(本当に森の熊さんみたいな人も沢山いました)中でも森林塾のテーマソング?(byイントラ藤原)になっているという「ロック・マイ・ソール」はしっかり練習したお陰で次の日まで耳に残りました。(笑)

【立ち寄り情報】

伊那まつり 8月5日、6日



限りでは18時45分頃の長野放送(フジ系列)でやってます。とはいえ、安心できないことに、中央(西山)と伊那市内を見渡せる我が家では、西山は雨、市内は晴れ、家は曇りなんていうことも結構あり、洗濯物を干すのを迷います。木曾駒の雲は晴でもかかると、空木の雲は天気が崩れる前兆、というのが私流の観天望気です。夏場は雷が多く、昨日も突然停電、デ、データが...とあせる一幕も。教訓:夏は細かめにデータ保存。【OLIVE三輪】

島崎先生が用意して下さいました。ご自慢の流しそうめん(写真左)。何故か神田さんが麺を茹でていましたが塾生の皆さんには大好評でした。

利き腕によってどちら側に立つかがコツ!せっかく場所を確保したのに麺をつかめず逃す羽目になっている人も少しは。7月22日の信濃毎日新聞に掲載されたイントラ宮崎(写真左)流しそうめんの麺汁を一升瓶に詰める。まさかそのピンを空けたのは?



7月22日の信濃毎日新聞に掲載されたイントラ宮崎(写真左)流しそうめんの麺汁を一升瓶に詰める。まさかそのピンを空けたのは?



さすがKOA森林塾生!そこらへんの宴会とは違います。自然農法の話や森林の話など、日ごろ感じている熱い

谷ではあちこちで祭りや花火大会があり、北からも南からも音が聞こえることも。隅田川などに比べれば見劣りはしますが、混雑度は少ないですよ。(諏訪湖は混むらしい。)お詫びと訂正:前回の「木のすず」の開店は10時ではなくて10時30分でした。すみません。【OLIVE三輪】

【おわりに】

Bコース入塾予定の方や、問い合わせの方などを含め、森林塾通信の郵送が毎回百通近くになってしまいました。H.P(ホームページ)掲載を検

思いをそれぞれ語り合っていました。今回都合で参加できなかった方は次の機会にぜひご出席を!



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375(開催日)